宮城県重症心身障害児を守る会・交流キャンプ：「会員交流会」　2007.10.1.

レジメ：「障害者の現在（いま）～今の世のキーワードは『（心の）居場所』～」

阿部幸泰

①「生きがい（アイデンテイテイ）」とは。

「居がい（心の居場所）」と「行きがい」の二側面から。

（島崎敏樹：東大元教授・脳神経科学者）

②「心」とは。

・「〈こころ〉というものは、元々相手を思い遣る想像力を通してしか、見えてこないものだ。」（吉田司：大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家）

・「教養はとは、人の心が解る心」（養老猛司：東大元教授・脳解剖学者）

「心臓は生きるために必要だけど、そこに命があるわけじゃない。命とは、みんなが持っている時間のことです。今は、時間を自分のためだけに使っているでしょう。これからは、時間を人のために使ってください。」（日野原重明：聖路加国際病院名誉院長）

・「親のない孤児よりも、もっと不幸なのは、心の迷い子、精神の孤児なのです。」

（石井十次：明治時代の知的障害児の教育実践の先駆者）

③「生きる（生活する）」→「人間関係」→「コミュニケーション」

・「教育とは、生命活動の革生（旧態を改革して新しい方向に進む）を互いに輔け合う関係」（梅津八三：東大元教授・教育学者）

・「コミュニケーション上手は質問上手（福田　建：話し方研究所長）」　→　別紙参照

④「居場所」とは。

・「安心して安定的に自分が自分であることを保障されている場」

（芹沢俊介：家庭、家族問題評論家）

⑤人間は、なぜ高齢期が長いのか。

・知識、技術は積み重ねは効くが、「どう生きるか」の知恵は積み重ねが難しい。

故に、次世代に直接知恵を伝え、授けるため。

☆先輩の親御さんたちは、親として障害のあるお子さんを育む知恵を、次世代の親に授け、また、心の居場所を提供する任務がある。　→　親の会の最も大事な存在理由の一つ。

「コミュニケーション上手は質問上手」

①「コミュニケーションとは、『やりとり、交流』を意味し、『問いに答える』、『問いを発する』は、その活性剤」

②「情報を鵜呑みにするだけでは、ボケてしまう。自分で考える習慣を身につけ、必要に応じて情報のストックある人に、質問して情報を引き出す。この二つの条件は、情報過多の時代に生きるには重要」

③「説得の名人は、質問上手。命令で動かすのは説得でなく、相手が進んで動いてくれないと、本来の説得と云えない」

④「『知らないから教えて欲しい』という気持ちを持ち続けられてこそ、よい質問者になれる」

⑤「コミュニケーションは、上から下へではなく、横から横に流れるのが望ましい」

⑥「コミュニケーションには、観察力も必要。違うという前提に立ってしっかり相手に目を向ければ、そこに意外な発見が生まれ、次第に相手の心の動きにも敏感になれる」

⑦「聞く、質問するは、相手の側に回ってみるところ－相手の土俵に上がる－から始まる。相手のセリフを代わりに言えるようになれば、歩み寄りも可能」

⑧「質問しづらいと迷わず、相手のフトコロに飛び込み、質問してみよう。恐れは自分が作るもの。思い切ってぶつかっていく経験が、自分に力をつけてくれるものである」

⑨「自問自答こそ質問上手への道。自問自答、すなわち自己内対話は、自分の頭でものを考える力を身につけるにはもってこいの方法。自分に向かう質問は、外に向かって発する質問を充実させる。結局、質問上手な人を目指す努力は、自分の器を大きくする努力に等しい」

引用文献：福田建、「コミュニケーション上手は質問上手」、文香社。